



2025 Annual Report

年次報告書

2025.4.1~2026.3.31



一人の志から始まった活動が、 新たないのちの拠点誕生へ つながった1年— 私たちの歩みは続きます

医師・吉岡秀人がミャンマーで無償の医療を始めたとき、
ともにいたのはほんの数人でした。
その志はやがて多くの人々に広がり、東南アジアから日本の
被災地、離島へと活動の輪を広げてきました。
2025年、ジャパンハートアジア小児医療センターの開院
は、その道のりが生んだ新たな希望です。「生まれてきて
良かった」と思えるいのちのために、私たちが歩みを止める
ことはありません。



Vision ビジョン

すべての人が、生まれてきて良かったと思える世界を実現する。

Build a world where everyone can be grateful for the gift of life.

Mission ミッション

医療の届かないところに医療を届ける。

To deliver healthcare to medically-isolated areas.

私たちは、出会えた一人ひとりの輝く人生のために、
治療を超えた医療の可能性を追求し続けます。



ジャパンハートは、誰もが「生まれてきて良かった」と思える社会を実現するため、医療・福祉分野をはじめ様々な活動を実施しています。私たちは、子どもたちの未来のために「持続可能な開発目標 (SDGs:Sustainable Development Goals)」の達成に貢献します。

CONTENTS

ジャパンハートのビジョンとミッション/目次	2-3
吉岡秀人 ジャパンハート最高顧問 メッセージ	
ジャパンハートのあゆみ	4-5
〈2025年度活動報告〉	
2025年度の活動ハイライト	6-7
ジャパンハート	
アジア小児医療センターのいま	8-9
カンボジア	10-11
ミャンマー	12-13
ラオス	14

メディカルチーム (MHR)	15
メディカルチームを経て、ジャパンハートスタッフへ	
私がここにいる理由	16-17
災害支援・対策 (IER)	18-19
地域医療支援 (RIKAjob)	20
スマイルスマイルプロジェクト	21
活動へのご支援/広報実績	22-23
ご支援いただいた企業・団体	24
会計報告	25
From Japan Heart Staff	26-27



年々歳々、欲がなくなっていくという感覚がある。体力が失われて寿命の残りを数え、人生を俯瞰し始めると、世間でいう欲望をかなえても大した意味が私にはないことがわかってくる。

それなりに大変な思いも経験してきたつもりでも何かその記憶がぼやけていて、何か密度が薄い人生を歩んで来たような気持ちにもなる。いいことも悪いことも呑み込んで人生はそれなりに進んできた。知らず知らずのうちに自分が飛べる高さのものだけに挑戦していたのかもしれないと反省したい気持ちもある。青息吐息の人生でなければ毎日がもったいないだろうと心の声がする。

カンボジアの病院がオープンして何ヵ月も過ぎたが、カンボジアの子どもたちに十分使ってもらっているとはいえない。

働く者たちが顔を引きつらせ、医療にあたるような毎日でなければせっかく建てた意味も薄くなる。

がん病棟の子どもは最近では治療の難しい、進行したり再発したりする子どもたちばかりになっている。それはそれでこの病院の役割だから仕方ないかもしれない。コンサルタントで来ている前国立国際医療センター小児科診療科長の七野先生に「入院している神経芽細胞腫の子どもたちは高リスクの子が多く、生存率は多分、ゼロ。現行の治療では、みんな死んでしまう可能性が高い」と言われた。

子どもたちの生還を信じ、入院や治療を継続しているその親御さんやそれを信じて24時間毎日ケアしてくれている看護師

たちや病院スタッフたちに心の底から申し訳なく思っている。

1995年1人で医療をはじめてから少しでも人々の役に立つのならば、たとえ無謀と言われようが、罵られようがひたすら前に進み、たとえどんなに大変なことが待っていて、多くの困難が我が身に降りかかろうとも前に進み生きてきた、それがジャパンハートのフィロソフィーなのだと言い聞かせていたのに、そんな状況も知らず毎日過ごしてきたようだ。治療がこの世に存在しないならば諦める。でもそれは中進国までは当たり前存在するのだ。

その子どもたちの生存率を上げるためには、末梢血幹細胞移植が必要になる。カンボジアではそれは行われていないし、医者たちはそれをみたこともない。

それで30%強生存率が上がる。そしてさらに日本で使われている薬を追加すると更に生存率が20%上がる。それなりに高価な薬だからそれなりにお金はかかる。

ジャパンハートの収入がもっと上がれば子どもたちは助かり始める。だから集めるしかない。移植もはじめるしかない。それより他に道はない一本道だ。

久しぶりに自分がやらねばならないのだという気になった。もしも私が30代の年齢ならば毎日、365日病院にいて働き続けると宣言したと思う。しかし年齢60歳を超え、そういう体力は多分もうない。体力を失った代わりに私が得たものは何なのだろう

か?私には何がある?今、必死で自問している。

これを今、読んでいる全てのスタッフや関係者に伝えたい。私たちにはまだまだやらないといけないことがたくさんあるはずだ。

新生児も心臓病や脳疾患の子どもたちにもまだ全然、手が届いていない。先は長い。

でもやることは決まっている。目の前の子どもたちを助けていくことだろう。

それを越えたその少し先の未来にきっと、今は手が届かない子どもたちの命がある。だから足踏みはしてられない。

どんどん前に進んでいくしかない。1日遅れれば何人かの子どもが死ぬのだと、その本気度があれば、足りないことばかり言っていられない。どうせ最初は何もなかったのだ。お金も電気も薬も病院も手術室も。そこから私ははじめた。足りないことばかり数えていたら、多分、ジャパンハートなど存在していなかった。もしジャパンハートがなければ、いったいどれほどの人たちの病は放置され、どれほどの人たちの命が失われたのか?を想像すれば、前に進むことこそ正道だとわかる。もしもそれができないのならば、それはジャパンハートではないし、その時点でジャパンハートは既に滅んでいるだろう。

ジャパンハート最高顧問
ファウンダー
小児外科医

吉岡秀人

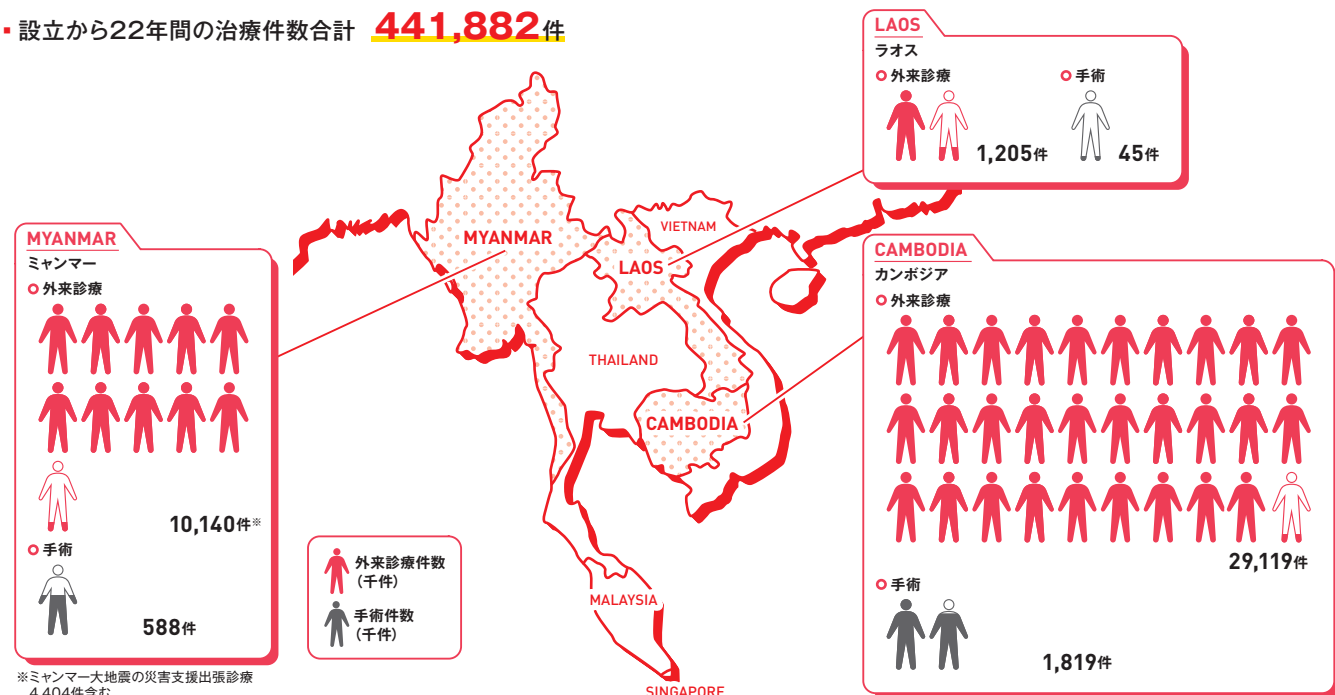
ジャパンハートのあゆみ

- 1995 吉岡秀人・ミャンマーで医療活動を開始
- 2004 国際医療ボランティア団体ジャパンハート設立
《ミャンマー》ワッチェ慈善病院で医療支援活動を開始
国際長期研修開始（現・メディカルチーム）
- 2008 《日本》東京事務局開設
《ミャンマー》サイクロン緊急救援・孤児支援開始
《日本》へき地・離島支援（現・RIKAjob）開始
《日本》心の医療事業（現・スマイルスマイルプロジェクト）開始
NPO法人格取得
- 2009 《カンボジア》医療支援活動を開始
- 2010 《ミャンマー》養育施設DreamTrain開設
《ミャンマー》視覚障がい者医療マッサージ訓練センター開設
- 2011 《日本》東日本大震災緊急医療支援、復興支援開始
12月、宮城県石巻「ジャパンハートこども・内科クリニック」開設
《カンボジア》夢の架け橋プロジェクト開始
「認定NPO法人」として認定を受ける
- 2013 《ラオス》医療支援活動を開始
《フィリピン》台風30号緊急医療支援
- 2014 《タイ・インドネシア》国際緊急救援事業開始
外務大臣表彰
沖縄平和賞受賞
- 2015 《ミャンマー》大洪水 緊急支援
《ミャンマー》小児心臓病サポート支援開始
- 2016 《日本》熊本地震 緊急支援
《カンボジア》AAMC（現・ジャパンハート医療センター）開院
大山激励賞受賞（河野朋子）
- 2017 《ミャンマー》小児生体肝移植プロジェクト開始
- 2018 《ミャンマー》ミャンマー国内初の小児生体肝移植成功
《インドネシア》スラウェシ島地震 緊急支援
- 2019 《カンボジア》「長沼給食センター」設立、患者への給食提供開始
《ミャンマー》口唇口蓋裂総合治療プロジェクト開始
第22回地球倫理推進賞（国際活動部門）、文部科学大臣賞 受賞
- 2020 《日本》令和2年7月豪雨を受け、熊本県で緊急支援
新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、クラスター発生施設などで医療支援を開始
国連UNIAITF Award2020 受賞
- 2021 《日本》令和3年8月豪雨を受け、佐賀県で医療支援活動
《日本》全国初の要介護濃厚接触者隔離施設を沖縄県に設置
第69回 菊池寛賞受賞（吉岡秀人）
第5回 ジャパンSDGsアワード SDGs推進副本部長（外務大臣）賞受賞
- 2022 大山激励賞受賞（神白麻衣子）
《日本》台風14号・15号 緊急支援
- 2023 《ミャンマー》小児がん治療開始
《ミャンマー》小児心臓病などの専門医療プロジェクト始動
《ラオス》小児がん治療プロジェクト始動
千嘉代子賞 受賞（吉岡秀人）
- 2024 《日本》能登半島地震 緊急支援
《日本》能登豪雨 緊急支援
国連UNIAITF Award 2024受賞
- 2025 《ミャンマー》ミャンマー地震緊急支援
第49回正力松太郎賞 特別賞 受賞（吉岡秀人）
《カンボジア》ジャパンハートアジア小児医療センター開院

ジャパンハートの活動に共感し、協力してくださった皆さまのおかげで活動を維持し、多くの患者さんに医療を届けることができました。

▶ 2025年度治療件数

- ・2025年度海外での治療件数合計 **42,916件**
- ・設立から22年間の治療件数合計 **441,882件**



2025年度ジャパンハート活動ハイライト



【カンボジア】200床の完全無償病院「ジャパンハートアジア小児医療センター」をカンボジアに開院

2025

2026

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月



【ミャンマー】2025年3月28日にミャンマーで発生したマグニチュード7.7の地震による被害に伴い、巡回診療および物資支援等を開始



【ミャンマー】ミャンマー大地震により被害を受けた活動拠点・ワツチェ慈善病院の運営を約2ヵ月ぶりに再開



「災害医療支援」をテーマにした、ACジャパン支援キャンペーンがスタート



【iER】能登半島の現況や今後の課題をまとめた、災害医療支援チームによるインパクトレポートを公開



日本人医師ら5名がカンボジアでの16年にわたる医療支援活動を評価され、カンボジア国家最高位勲章を受章



吉岡秀人医師の海外医療活動30周年記念パーティーを開催



【スマイルスマイルプロジェクト】株式会社セント・フォースのチャリティーによる病院内プラネタリウムを開催(左から上村さや香さん、望月理恵さん、新井恵理那さん)



ベースフード株式会社と協働開始。栄養食提供による、医療支援チームをサポート



『コウノドリ』作者/漫画家・鈴ノ木ユウ氏と吉岡秀人医師によるトークイベント『いま伝えたい、目の前の命に向き合うストーリー』開催



吉岡秀人医師が「第49回正力松太郎賞 特別賞」を受賞
※写真は2025年9月の授賞式の様子



【iER】災害医療支援の体制および個人スキル強化に向け、団体初の海外訓練をカンボジアにて実施



【ラオス】プロジェクト初となる小児がん手術を実施



ミュージシャンの 岸谷香さんがアドバイザーボードに就任



【カンボジア】既存病院からの患者の移動や外来診療が開始し、アジア小児医療センターが本格稼働開始



MBS/TBS系「情熱大陸」にてアジア小児医療センターを特集



【ミャンマー】高齢化が進む施設改善に向けたDream Trainクラウドファンディング実施、目標達成

ジャパンハート アジア小児医療センターのいま

2025年10月31日、カンボジア・プノンペン近郊に開院した、「ジャパンハート アジア小児医療センター」。早くも開院から1年が経とうとする今、病院の現在地をご紹介します。

少しでも入院中の子どもたちの毎日が楽しくなるように —さまざまなイベントや仕掛けを用意

小児がんの子どもたちは日々、辛い治療と向き合いながら病院の中で過ごしています。そんな子どもたちの闘病生活が少しでも楽しくなるよう、私たちはさまざまな取り組みを始めました。例えば、手術の際は本格的なブレイカーに乗って手術室へ。子どもたちが勇気を持って出発する姿に、スタッフみんなが「がんばって!」「大丈夫だよ」と声をかけて送り出します。



医療者が付き添いながら、束の間の時間を楽しみます

現在は月に数回、小児がんの子どもたちを対象に病棟の外で遊ぶ時間を設けています。閉鎖された環境の中で過ごす子どもたちに少しでも明るく健やかに過ごしてほしい、という想いから始まりました。免疫力低下による感染リスクへの配慮から、ゾーニングや消毒など安全管理の仕組みを整えながら実施。長期入院の中でも楽しさや喜びを感じられる時間を今後も継続していきます。

子ども支援スタッフの配置と院内学級運営により、 入院中の子どもたちにも豊かな経験と学びを

アジア小児医療センター開院に伴い、「子ども支援スタッフ」を新設しました。長期にわたり入院生活を送る子どもたちの療養体験をより良くするため、遊びや学びの提供、医療スタッフとの連携によるケア体制の構築を行いました。また、一般社団法人Social Compass、CHEERS株式会社との協働のもと、院内学級をスタート。入院中の子どもたちの学びの制度が整っていない途上国において、必要な成長・発達を支えることを目指し、「ICTを活用した学習(認知能力育成)」「アート体験(非認知能力育成)」の2つの軸から派生したプログラムを、病棟内で行っています。



真剣に耳を傾ける子どもたち



ガラスに絵が描けるクレヨンを使って、自由にお絵描きを楽しみました

CT撮影装置の導入

新たにCT撮影装置の導入に取り組んでいる、アジア小児医療センター。現在はボランティア放射線技師によるレクチャーや検査フローの整備が進み、単純CT検査に加え、造影CT検査も開始しました。

現在は小児患者も含めたCT検査をスタートしています(2026年7月時点)。



新たに導入された、CT撮影装置 装置取り扱いレクチャーのため、短期でやってきたボランティア放射線技師と現地スタッフ

外来診療者数、小児患者の新規入院数が増加。 着実に認知広がる

開院直後の11月では459件だった外来診療数も2026年に入ってから平均して毎月約2500名ほど来院。2026年1月以降は平均して毎月約100名が新たに入院しています。

※ともに2026年6月時点



多くの人々が待つ外来診療の待合 外来診療の様子

アジア小児医療センターでは、1月末より理学療法士をメディカルチームに迎え、小児がん病棟および外来のリハビリテーションに取り組んでいます。

また、ネフローゼ症候群で入院をしている患者を対象に減塩食の提供を行うなど、



医療以外の側面からのサポートも実施しています。

ジャパンハートアジア小児医療センターの今後

人工呼吸管理が必要な重篤な患者へのより安全な対応や、大きな手術を行った患者への術後管理の場として小児集中治療室(PICU)の設置が急務となっており、2027年開設へ向けて準備を進めています。また、外来診療は2026年の夜間救急外来開始を目指し、トライアルを実施。24時間患者を受け入れられる環境を整えていきます。これらを安定的に運用していくには、人材の確保が不可欠となっており、現地スタッフの採用および教育も並行して行っていく必要があります。



2026年6月、アジア小児医療センターの運営責任者に就任し、運営に携わるなかで、改めてこの病院の大きな可能性を実感しています。カンボジアや周辺国には、いまなお医療へアクセスできず、適切な治療を受けられない子どもたちが数多くいます。皆さまのご支援で誕生したこの病院が、そうした子どもたちの希望となり、小児がん治療をはじめとする高度医療を無償で届けられる場所であり続けたいと願っています。私たちが目指すのは、医療を届けるだけの病院ではありません。ここを訪れる子どもたち、そして病院に関わるすべての人の人生が豊かになる、そんな病院をつくっていきたいと考えています。皆さまの想いを力に変え、多くの仲間とともに、誰一人取り残さない医療の実現に向けて挑戦を続けてまいります。

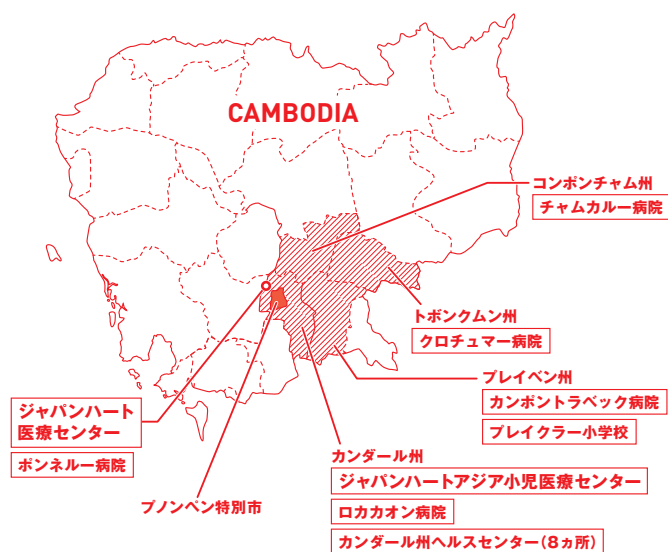
ジャパンハートアジア小児医療センター 運営責任者 **松原 遼子**



カンボジア

Cambodia

高度医療と地域連携、
双翼を羽ばたかせ、確かな未来を目指す



実績

診療:成人16,328件、小児12,286件
手術:成人1,241件(うち分娩63件)、小児437件(小児がん47件含む)

内 訳

【ジャパンハートアジア小児医療センター】
 診療:小児9,173件
 手術:小児200件(小児がん18件含む) ※2025年11月~2026年3月
 【ジャパンハート医療センター】
 ※ジャパンハートアジア小児医療センター開院に伴い、
 2025年11月以降は成人を主な対象とした医療活動
 診療:成人16,328件、小児3,113件
 手術:成人1,241件(うち分娩63件)、小児237件(小児がん29件含む)
 【連携病院/出張診療】
 診療:505件、
 手術:成人131件、小児10件

活動地

ジャパンハート医療センター／
 ジャパンハートアジア小児医療センター／公立ボンネルー病院／
 公立カンボントラベック病院／公立クロチュマー病院／
 公立チャムカル病院／公立カカオン病院／
 カンダール州各ヘルスセンター（計8カ所）／ブレイクラー小学校

▶ **ジャパンハートアジア小児医療センター
医療活動**

2025年10月31日に開院したジャパンハートアジア小児医療センター(以下、ACMC)では開院以降患者数を増やし、わずか5ヵ月で昨年ジャパンハートこども医療センターを訪れた小児外来者数の倍以上もの診療数を達成しました。プノンペン近郊のタクマウ市に開院したことで病院のアクセスがよくなり、これまで以上に多くの人たちが訪れてくれるようになりました。



また、医療提供のみでなく「子どもが楽しめる病院」をコンセプトにネイルイベントやマジックショーなど、さまざまな企画も行っています。



ACMCに拠点を移した栄養管理部では、小児がん患者に加え、小児ネフローゼ症候群患者への減塩食提供を開始しました。また、入院患者の栄養状態の評価や患者・家族への栄養教育にも取り組みました。今後は疾患別治療食の展開を進め、持続可能な栄養管理体制の構築を目指しています。



新たに建てられたこのACMCで、これまで以上に質の高い医療をより多くの人々へ届けるべく、日々進化を続けながら活動に取り組んでいます。

▶ **ジャパンハート医療センター医療活動**
(旧ジャパンハートこども医療センター)

隣接する連携病院である公立ボンネル病院のキャパシティが拡大したことや、新病院の開院に伴い医療者が2拠点に分かれたこともあり、成人患者の外来診療数・手術件数はやや減少したものの、出張診療による手術件数は過去最大となりました。まだまだ経済発展の恩恵が少ない都市部から離れた地域の医療に、大きく貢献することができたと感じています。

また、2025年度はかねてより進めてきた帝王切開の技術移転に基づき、隣接する連携病院を主体とした周産期医療に取り組んできました。結果、3,739件の妊婦検診、987件の分娩を連携病院の主導のもと、行えるようになりました。

都市部では著しい経済発展が見られる一方で、地域医療ではまだまだ課題も多く残っているカンボジア。ジャパンハート医療センターでは今後は地域連携を事業の柱とし、広く地域医療の発展を促すべく活動が続けてまいります。



▶ 夢の架け橋プロジェクト

現在、ジャパンハートの両病院で中心となって活躍しているスタッフの多くはこの「夢の架け橋プロジェクト」を通じて医療者となったカンボジア人たちです。主に経済的な事情で進学が困難な学生を支援するこの奨学金制度を通じて、2025年度は新たに医師志望者5名、看護師志望者2名の計7名の学生が採択されました。幾度にもわたる学力テストや面接を通過し、将来の医療従事者としての道を歩みだした彼らは現在、プノンペンにあるジャパンハートのオフィスで共同生活を行いながら勉学に励んでいます。

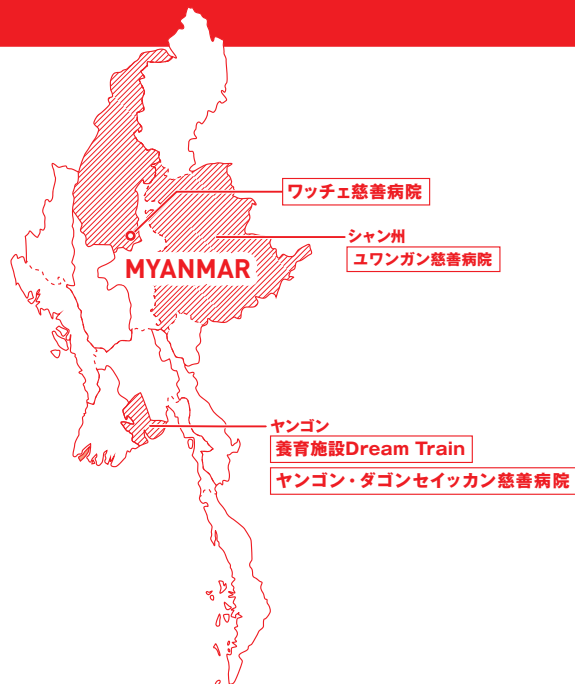




ミャンマー

Myanmar

困難のなかにあっても、
人々の生命と暮らしに寄り添う



実績

▶医療活動

ワッチェ：診療2,983件、手術191件
出張診療：診療1,183件、手術46件
ヤンゴン・ダゴンセイッカン慈善病院：診療1,570件、手術134件
専門ミッション：口唇口蓋裂総合治療事業手術99件
小児外科手術63件
小児心臓病治療55件

災害支援：出張診療4,404件

▶養育施設 Dream Train
新規受入数15名
累計数388名

活動地

ワッチェ慈善病院、
ヤンゴン・ダゴンセイッカン慈善病院、
ユワンガン慈善病院、その他政府系病院

▶医療活動

2025年度の医療事業は、3月28日に発生したミャンマー大地震によりワッチェ慈善病院の一部が倒壊するという甚大な被害を受けたことから、当初計画していた事業内容を緊急支援活動へと転換してスタートしました。

被災から4日後の4月1日より、被災地域における巡回診療を約5カ月間にわたり実施し、延べ4,404名に対する診療を行いました。また、被災地4カ所の救急対応病院に対して緊急医療物資を供与するとともに、約4,700世帯へ食料および生活必需品を配布し、被災住民の生命と生活の維持に貢献しました。



一方、被災したワッチェ慈善病院では、病院前の道路脇に設置した仮設診療スペースにおいて外来診療を継続しながら施設の復旧・修復作業を進めました。その結果、被災から約2カ月後の6月初旬には入院患者の受け入れおよび一部手術機能を再開し、8月には主要な修復工事を完了して医療活動を全面的に再開するに至りました。



さらに、大地震による被害に加え、ワッチェ慈善病院周辺の情勢変化により安定的な医療活動の継続が困難となるなか、最大都市であるヤンゴン郊外の活動拠点での手術活動を開始するとともに、日本人専門家の協力のもと小児心臓病・小児がんなどの小児外科疾患・口唇口蓋裂などの患者217名に対し、高度専門医療も提供してきました。



このように、情勢が不安定な環境下においても、緊急医療支援、病院機能の早期復旧、新たな医療拠点での手術活動の立ち上げを並行して推進することで、被災地域および医療アクセスが制限された地域における医療提供体制の維持・強化に重要な役割を果たしました。

▶養育施設 Dream Train（ドリームトレイン）

社会情勢の影響により人の移動が制限され続けるなかでも、2025年度は6地域から15名の子どもたちを迎えることができました。施設として初めてインドとバングラデシュの国境に位置するチン州からの受け入れも実現し、DreamTrainの活動が、これまで以上に広い地域に認知されてきていることがうかがえます。

施設運営においては、子どもたちの暮らしと成長を支える新棟建設を中心としたリニューアルプロジェクトが始動しました。日本NGO連携無償資金協力に採択されたほか、クラウドファンディングでは1,800万円を超えるご支援が寄せられ、計画の実現に向けて大きく前進しています。新施設では、一人ひとりがより安心して暮らし、学び、自立への力を育めるよう、成長段階に応じた生活環境の構築に加え、プライバシーへの配慮や生活インフラの充実を進めていきます。



教育面でも着実な成果が生まれました。大学進学希望者8名のうち4名が合格し、1名は経済科目で成績優秀賞を受賞。また、51名が学業やスポーツの分野で表彰されました。日本語教育にも継続して取り組み、これまでに13名の卒業生が日本での進学・就職を実現しています。なかには、建設業に従事しながらJFA公認サッカー指導者ライセンスの取得を目指す卒業生もあり、自らの目標に向かって挑戦を続ける先輩たちの姿は、在所する子どもたちだけでなく、スタッフにとっても大きな励みとなっています。

不安定な社会情勢のなかでも、子どもたちは自らの可能性を信じ、一歩ずつ未来を切り拓いています。





ラオス

Laos

探求は止まらない。医療を届け、その先へ
— ラオスで進む医療技術移転



ジャパンハートはラオス北部のウドムサイ県病院において、甲状腺疾患の診断・治療技術向上を目的とした技術移転事業を継続して実施しています。

2025年度も日本の内分泌科学分野の専門医の皆さまのご協力のもと、手術ミッションおよび内科ミッションを実施し、2025年度の執刀数は35件となりました。

これまでの基礎的な技術指導に加え、近年はより難易度の高い症例への対応や、周術期管理、安全管理体制の整備など、さらに実践的な内容へと支援の重点が移っています。現地医師が執刀や診療の中心を担う機会も増え、医師だけでなく看護師や検査スタッフを含めたチーム全体の能力向



上が進んでいます。現地で質の高い医療が継続的に提供できる体制づくりに向け、技術移転は着実に成果を積み重ねています。

首都ビエンチャンの国立小児病院において、九州大学小児外科との連携のもと、小児がん治療に関する技術移転を継続しています。

2025年度は、小児がん患者の診療支援を行うとともに、現地医療者の知識・技術向上に向けた教育活動にも力を入れました。オンラインレクチャー、手術指導などを通じて実践的な学びの機会を提供し、現地スタッフが主体的に治療方針を考えられる環境づくりを進めています。また、手術映像をリアルタイムで共有するなど、新たな教育手法も取り入れ、限られた機会のなかでも効果的な技術移転を目指しました。

さらに、地方病院との連携強化にも取り組み、小児がん患者を早期に発見し、適切な治療へつなげるための紹介体制づくりを進めています。2025年度は9名の患者さんにアプローチすることができました。今後も現地医療者とともに、ラオス国内で持続可能な小児がん治療体制の確立を目指してまいります。

実績 診療1,205件、手術45件

活動地 ウドムサイ県病院
国立子ども病院（ビエンチャン特別市）

メディカルチーム MHR: Medical Human Resources

▶活動を支える人材基盤の構築

ジャパンハートの海外医療事業は、医師・看護師・助産師・薬剤師・臨床検査技師・診療放射線技師など、多職種で構成されるメディカルチームによって支えられています。2025年度は、カンボジアにおけるアジア小児医療センター（以下、ACMC）の開院に伴い、医師やコメディカルを含む多職種の需要が増加しました。メディカルHRでは、活動報告会や個別相談などを通じて医療者との接点を創出し、採用体制の強化に取り組みしました。その結果、2025年度は26名の新たなメンバーがジャパンハートの活動に参加しています。

また、キックオフ研修や、看護職を対象とした国内活動期間中の面談を通じて、海外活動に必要な姿勢や課題解決力の醸成に取り組みました。メディカルチームはカンボジア国内の医療活動に加え、ラオスでの手術活動や医療者育成事業などにも参画しており、各国・各プロジェクトのニーズに応じた人材配置を推進しました。こうした取り組みにより、国や職種を越えた連携が進み、医療活動を支える人材基盤の充実につながっています。



▶アジア小児医療センター開院を支えたOGOB医療者

ACMC開院にあたり、大きな力となったのが、過去にジャパンハートで活動したOGOB医療者です。開院準備から開院後の運営支援まで、5名のOGOB医療者が現地に入り、各専門分野で中心的な役割を担いました。過去の経験や現地理解を活かしながら、新たなメンバーや現地スタッフを支える存在となり、ジャパンハートが長年培ってきた人材の循環と継承が形になった一年でした。

▶活動の拡大に合わせたボランティア受け入れ体制の整備

ACMC開院によりカンボジアでの活動地が2拠点となり、さらに地方での移動診療も開始されました。こうした変化に対応するため、海外短期ボランティアの受け入れ体制を見直し、参加者の学びと現場ニーズの両立を目指したプログラム整備を進めました。

その結果、新たに臨床工学技士や栄養士などの受け入れを開始したほか、看護師の短期ボランティア受け入れも再開し、より多様な専門職が活動に参加できる体制づくりを行いました。

実績 新規参加数：
看護師12名、助産師2名、医師6名、臨床検査技師1名、
診療放射線技師1名、薬剤師2名、理学療法士1名、
子ども支援スタッフ1名

活動地 海外：カンボジア／ラオス／ミャンマー
国内：新庄徳洲会病院／長崎県対馬病院／
徳之島徳洲会病院／喜界徳洲会病院／
沖永良部徳洲会病院／瀬戸内徳洲会病院

私がここにいる理由

メディカルチームでの日々は、医療の現場を知るだけでなく、自分自身と向き合う時間でもあった。メディカルチームの活動を終えてもなお、その海外医療の場に身を置くことを選んだ4人。それぞれの「理由」を話してもらいました。



根釜 宏平
ラオス事業 看護師

Q ご自身の経歴といつからジャパンハートに関わり始めたか教えてください

A 日本では大学病院の集中治療室で働いていました。海外へ行ってみようという気持ちはあるながらもコロナでなかなか渡航ができなかったのですが、7年目の頃ようやく海外へ行けるようになり、ジャパンハートのメディカルチームに参加することを決めました。

Q メディカルチームでの活動で印象に残っていることはありますか？

A カンボジアで活動しながら能登支援活動に入ったり、途中からはラオスで活動を始めたりとさまざまな経験ができました。カンボジアには自分たちの病院があり、約10年かけて築き上げてきた関係性や文化があるからこそ、さまざまな面で物事を進めやすいと感じます。一方ラオスでは、価値観や仕事へのモチベーションも異なり、こちらの意図が伝わらず誤解を生んでしまうこともあって、文化・考え方の違いの難しさを強く感じました。

Q メディカルチームの活動を終えた後もスタッフとして海外医療に携わろうと思った理由は？

A メディカルチームの一員として1年間活動するなか、得た経験を組織に還元しないのはもったいないと感じていました。ラオスは現在僕が担当している小児がんプロジェクトも動き出していたので、ラオスに異動する時点で「行くならメディカルチームの活動が終わったあともスタッフとしてプロジェクトに携わりたい」と考えていました。



Q ラオスで活動するうえでのやりがいを教えてください

A ラオスでは地方を中心に、伝統療法を重んじる文化が今もあります。そうした価値観の違いを感じながら活動するなか、初めて出会った小児がん(腎芽腫)の患者・ソンサイ君の治療がプロジェクトを大きく動かししました。1年間の闘病を経て今は自宅に戻っています。価値観や文化の違いの壁を感じることもありますが、「治療」という選択肢があることをもっと伝えていきたいです。



関山 弘子
ラオス事業 看護師

Q ご自身の経歴といつからジャパンハートに関わり始めたか教えてください

A 大学病院の神経内科から始まり、その後10年以上にわたり三次救急のICU・ERで経験を積んできました。そのなかで早期離床やリハビリに興味を持ち、アジアの学会参加をきっかけに日本以外のフィールドも意識するように。今後も看護師として成長し続けたいと考えるなかで、へき地医療・途上国医療を現場で学べるジャパンハートを知り、参加を決めました。

Q メディカルチームでの活動で印象に残っていることはありますか？

A 現地スタッフとともに活動するなかで「もっと知りたい」という欲求の強さに触れ、カンボジアの現場で私ができることは何かを考えたことを覚えています。それがきっかけで、救急器材のレクチャーやACLS(二次救命処置)の院内普及に取り組むようになりました。



現地スタッフにACLSをレクチャーする関山看護師(中央)

Q メディカルチームの活動を終えた後もスタッフとして海外医療に携わろうと思った理由は？

A ラオスの甲状腺プロジェクトで大きな役割を担った経験を通じて、「自分が伝えたいことが現地スタッフにどう残るか」を意識するようになりました。一時的な関わりだと、ともに取り組んできた活動のその後が離れてしまった途端に見えなくなりますが、スタッフであれば関わり続けることができる。現地スタッフとともに、その場所に合ったより良い形を一緒につくっていきたくーそう思ったことが、スタッフとして残ったきっかけです。

Q ラオスで活動するうえでのやりがいを教えてください

A 現在は、甲状腺プロジェクトをどのように現地の医療体制の中に根付かせ、今後につなげていくかを考えているフェーズです。これまで患者さんの隣で看護をしてきた自分にとって、プロジェクト全体を見ながら調整していく役割は難しさもあります。それでも、診療や手術の一つひとつが現地スタッフの経験や自信につながっていくこと、そして自分たちが離れた後も続いていく形を整えていくことに、大きなやりがいを感じています。



鰐川 音寧
カンボジア事業 看護師

Q ご自身の経歴といつからジャパンハートに関わり始めたか教えてください

A 2020年、コロナ支援や熊本の水害支援に関わったのち、11月から国際看護師研修(現在のメディカルチーム)がスタートしました。新潟・五島列島で活動したあと、コロナで渡航できない時期は国内で活動を続け、2021年11月にカンボジアへ。トータル2年くらい活動してきました。

Q メディカルチームでの活動で印象に残っていることはありますか？

A カンボジアの州立病院で一人で術後ケアを担当したときは、自分の知識不足を痛感したと同時に、日本ではいかに周りに助けられてきたかを実感しました。研修後半の小児がん病棟では、子どもたちの笑顔に励まされる一方、亡くなる子も多く、無力感を感じることもありました。現地スタッフとの信頼関係を築くのに悩んだ時期もあったのですが、勇気を出して一歩踏み出したら、想像以上にあたたかく受け入れてもらえたことも私にとって大きかったです。



Q メディカルチームの活動を終えた後もスタッフとして海外医療に携わろうと思った理由は？

A メディカルチームの1年間は、患者さんやスタッフとの関わりを通して、毎日が自分と向き合う時間でした。もともと自分の気持ちを言語化するのが苦手だったのですが、今後何をしたいかを考え続けたので、研修を終えたときに「やりきった」という実感がありました。一方、自分にまだできることがあるのではないかと感じ、カンボジアに戻ることを決めました。

Q カンボジアで活動するうえでのやりがいを教えてください

A 子どもたちの心からの笑顔と、スタッフの成長がやりがいです。活動をしながら自分と向き合うなかで、「世界中のみんなが自分の好きな人たちとずっと一緒に安心して穏やかに過ごせる世界をつくりたい」という気持ちに気づきました。カンボジアでの活動はまさにそこにつながっていて、子どもたちやスタッフと一緒に過ごす時間がその実感を与えています。



小鯖 貴子
カンボジア事業 看護統括責任者

Q ご自身の経歴といつからジャパンハートに関わり始めたか教えてください

A もともと救命センターの看護師として働いていました。東北在住だったため東日本大震災では病院内での受け入れ対応をしましたが、現場に行けないもどかしさから、現場に駆けつけられる看護師になりたいとボランティア活動へ。オーストラリアでのアシスタントナースや派遣看護師などを経て、2015年にジャパンハートに関わり始めました。

Q 当時の看護ボランティア、そして2017年からのラオス駐在時、印象に残っていることはありますか？

A 当時は吉岡(秀人)先生と看護師数名がミャンマー・カンボジア・ラオスを手術活動で巡ることがあったのですが、そのなかで「お前はラオスや」と言われてラオス駐在が決まりました。理由は今でも謎ですが、結果的にすごくよかったと思っています。ラオスは事業規模が小さいからこそ担う役割が多岐にわたり、政府や保健省との会議、プロジェクト計画まで経験できました。現地の最前線だけではなく、国や県の事情なども踏まえた全体最適を考えないとプロジェクトは成立しないということを痛感しました。



Q 現在、カンボジアで活動するうえでのやりがいを教えてください

A アジア小児医療センターが、ひとつひとつ形になっていく姿を見ていくことにやりがいを感じています。現在は臨床から一歩下がった立場ではありますが、子どもたちの笑顔はやっぱり嬉しいですし、手術に臨む彼らの覚悟や、命と向き合う姿に触れるたびに、一生懸命生きているかと問われているような気がします。やりがいというより、その姿に恥じない自分でないかやいけない、そんな感覚です。



アジア小児医療センターのスタッフと(前列右)



災害支援・対策

iER: International Emergency Relief

地域とともに、災害に強い医療支援体制を築く

▶ 令和6年能登半島地震支援

2024年1月に発生した大地震および同年9月の豪雨災害を受け、ジャパンハートでは能登半島での支援活動を継続しています。2024年6月に開始したサロン活動の来場者数は2026年3月末までに累計1,691名、仮設住宅訪問看護件数は累計982件となりました。

また、2025年4月から開始した訪問リハビリテーション活動では、地域保健師と連携のうえ、仮設住宅を中心とする計173件で生活動線の確認や個別の運動プラン作成を実施。生活環境の変化に伴う活動性および認知機能低下の抑止を目指しています。

加えて2025年度には、奥能登地域の医療機関から「交通インフラの悪化等に伴い、受診率が低下している」との声を受け、輪島市社会福祉協議会との協働で簡易健康診断企画を開始しました。専門家による心電図検査、下肢エコー検査、身体機能チェック、認知テストなどを行うことで早期リスクの発見と受診勧奨を目的としたものです。地域住民の方々により参加しやすい公民館で開催し、初回2地区で計42名の方にお越しいただきました。



ボランティア参加者の声 沖本真史医師

発災直後の避難所支援から約2年ぶりに能登での支援活動に参加し、住民の皆さまの健康相談やエコーを用いた検査を行いました。新築する家の地鎮祭について笑顔で話してくださいる方がいる一方で、すべてを失ったことで気力をなくし、飲酒量が増えている方もいらっしゃいました。

震災前とまったく同じ日常に戻ることは、難しいのかもしれませんが、それでも、外からの応援が必要な生活から、地域のコミュニティの中で再び自立して暮らしていける生活へと移行していくこと。そこまで見届けて、初めて支援は一つの区切りを迎えるのではないかと思います。

医療支援活動では対象者の多くが高齢者であることから、子ども向け支援として2025年2月より中高生に対する一次救命処置(BLS: Basic Life Support)研修の提供も実施しています。これまでに、能登町、輪島市、七尾市、志賀町の5校に出張し、累計288名の学生が受講。開催にあたっては、キャリア教育の一環として看護師、作業療法士スタッフから医療に携わる職業の魅力を伝えたほか、救急救命士を目指す大学生らがインストラクターとして指導に加わり、大学生活について語りました。



実績

令和6年能登半島地震支援(2025年度単年):
 サロン活動来場者数 770名
 訪問看護件数 464件
 訪問リハビリテーション件数 173件
 健康チェック企画来場者数 42名
 中高生向けBLS研修受講者数 220名

▶ iER災害ボランティア研修

第15回・第16回となる新規登録ボランティア研修に加え、既存登録者向けに4回のステップアップ研修を実施しています。また、2026年3月に行われた日本災害医学会では、能登半島地震やミャンマー大地震における支援活動について発表を行いました。



▶ 災害支援訓練の実施

ジャパンハート災害支援・対策セクションでは、平時からの備えとして大規模災害を想定した訓練を行っています。特に2025年度は、カンボジアにおいて現地スタッフと協働し、日本からのボランティア参加者9名とともに地方部ブレイクラーの小学校で巡回診療形式の訓練を初めて実施。炎天下の中で資機材の準備から長距離移動、仮設診療所の設営を行い、第一陣と第二陣合わせて計381名の子どもたちを診察しました。

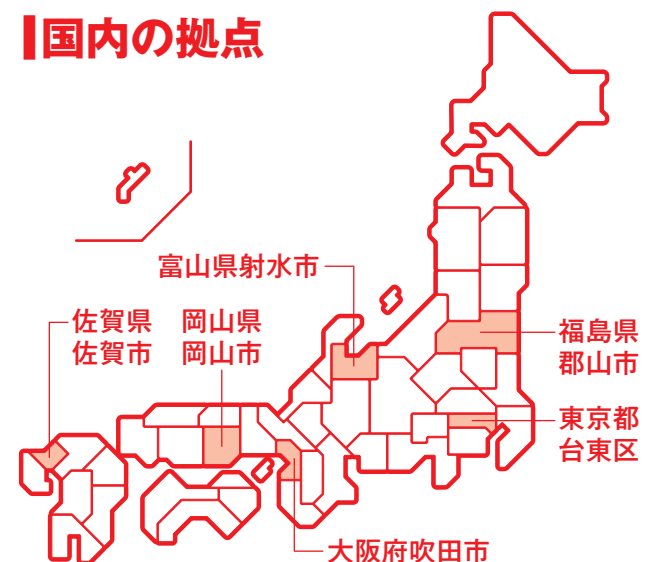
また国内では、2024年度に協定を締結した高知県での防災訓練や、佐賀県における避難所実証訓練などに参加し、要支援者アセスメントを始めとする医療支援だけでなく、避難所環境整備、本部運営など幅広い技術の向上に努めています。



▶ 福島県郡山拠点の開設

2025年10月、災害時の人的・物的支援を円滑に執り行うため、佐賀県、富山県、岡山県に続き福島県郡山市に新たな拠点を開設しました。これにより、東北エリア及び周辺地域での災害時に医療資材等を迅速に現地へ届ける体制構築に加え、医療支援チームの活動拠点の確保が可能となりました。

I 国内の拠点





※撮影地：瀬戸内徳洲会病院

地域医療支援／RIKAjob

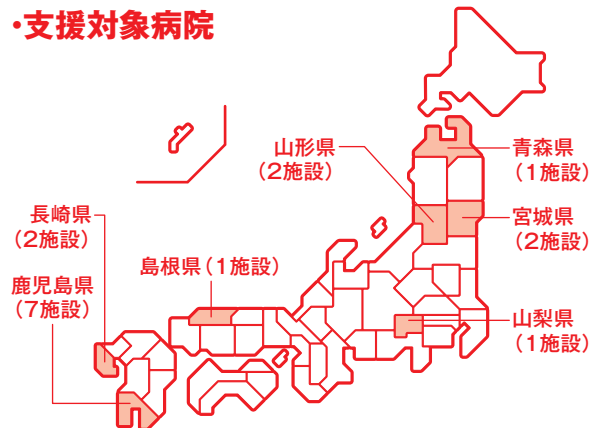
▶ 看護師と離島・へき地をつなぎ、地域医療と個人のキャリアを支える

日本国内には、医師や看護師が慢性的に不足する離島・へき地が今もなお数多く存在しています。RIKAjobは、そのような地域の医療を支えたい看護職と医療機関を繋いでいます。2026年1月1日から事業体制を刷新し、オンライン説明会や対面イベントを通じて離島・へき地医療の現状を発信。2025年度は昨年度の45名から29%増となる58名の看護師・助産師が各離島・へき地での地域医療の活動に踏み出しました。

「不安で一睡もできずに島に来了。でも今は、ここが"ただいま"と言える場所になっていた」。これは実際に離島医療機関で経験をしている看護師の言葉です。RIKAjobは、こうした出会いと変化を生み出し続けています。

2026年度は入職者数100名を目指し、毎月の説明会開催・積極的なイベント参加・新地域の開拓・SNSでの情報発信強化に取り組んでいます。RIKAjobでの経験が、看護師一人ひとりのキャリアを豊かにするとともに、日本の地域医療を支える力となっています。

・支援対象病院



※対象病院名は「RIKAjob」ホームページからご確認ください。

実績 ジャパンハートとの提携医療機関：16医療機関
活動者：58名

▶ 提携医療機関：瀬戸内徳洲会病院 榮看護部長より



瀬戸内徳洲会病院は、奄美大島南部に位置し、加計呂麻島・請島・与路島を含む地域の医療を担う病院です。離島では医療人材の確保が大きな課題ですが、RIKAjobとのご縁により、2020年に初めて看護師を受け入れて以来、多くの看護師の皆さまに活動いただいております。

RIKAjobから来られる看護師の皆さまは、新しい環境にも柔軟に対応し、患者さんやご家族、地域住民に寄り添いながら活躍されています。限られた医療資源のなかで、多職種と連携しながら幅広い看護を実践する姿は、現場スタッフにとっても大きな刺激となり、組織の活性化につながっています。また、離島医療や地域包括ケアを実践的に学ぶ経験は、看護師としての視野を広げ、成長につながる貴重な機会になっていると感じています。

地域医療を必要とする場所と、その力になりたいと願う医療従事者を結びつけるRIKAjobの取り組みは、私たちにとって大変心強い存在です。今後も地域医療を支える仲間との出会いを大切にしながら、必要な医療を必要な人へ届けられる環境づくりに努めてまいります。



スマイルスマイルプロジェクト

▶ 闘病中の子どもたちの「心を救う医療」で広がる支援の輪

小児がんと向き合う子どもを対象に、家族が抱える医療ケアや体調変化への不安を軽減して旅行や外出を楽しめるよう、ジャパンハートの医療者が付き添い、サポートするスマイルスマイルプロジェクト（以下、SSP）。2025年度は、のべ415名の子どもと家族をサポートし、293名のボランティアにご協力いただきました。また、SSPは活動開始から15年が経ち、これまで累計のべ755組の旅行を支援してきました。

近年は外出支援に加え、小児がんへの理解を深めるため、啓発活動にも力を入れています。そのひとつとして、各地でレモネードスタンドを実施し、多くの方々に小児がんについて知っていただき、支援の輪が広がるような活動もしています。今後も、子どもと家族がかけがえのない笑顔の時間を過ごすよう、支援と啓発活動の両面から取り組んでまいります。

実績 個別のご家族に付き添う企画：48件
複数家族を招待するイベント：11件

👉 ご家族からのお便り

ユニバーサル・スタジオ・ジャパンご招待イベントに参加

長女が脳腫瘍と診断されたのは2歳の時でした。再発を繰り返し、6回の手術と抗がん剤治療、陽子線治療を受けましたが、冬には脊髄に病変が見つかりました。再び治療を受けましたが、病状は徐々に進行していました。そんななか、病院の看護師さんから「こんな企画があるよ」と紹介していただき、体調や痛みへの不安もありましたが、先生や看護師さんが同行してくださるため、万が一の時も安心だと感じ、思い切って参加を決めました。当日は、長女が楽しみにしていた大好きなポケモンのショーをはじめ、ミニオンやマリオのアトラクションなど、たくさんの体験ができました。偶然、キノピオに出会った際には、車椅子に乗っている長女を見つけて近寄ってきてくれ、ハイタッチをしてくれました。とても嬉しかったようで、1日を通して痛みもなく、心から楽しむことができました。また、ボランティアの方が車椅子を押してくださったり、写真を撮たくさん撮ってくださったりと、優しくサポートしていただきました。このような素晴らしい機会をご提供いただき、心より感謝申し上げます。家族にとって、かけがえのない思い出になりました。



活動へのご支援

私たちの活動は、皆さまからのご寄付によって成り立っています。

いただいた寄付金・募金は「医療の届かないところに医療を届ける」ため、大切にに使わせていただきます。

ジャパンハートは認定NPO法人です。ジャパンハートにご寄付いただくと、税制上の優遇が受けられます。

所得控除と税額控除から、いずれか有利な方を選択することができます。

所得控除の場合、(寄付金額－2,000円)×40%の額が所得税から控除されます。

例えば3万円を寄付した場合、(30,000-2,000)×40%=11,200円が所得税から控除されます(還付されます)。

ジャパンハートへのご寄付は、**紺綬褒章授与申請の対象**となります。

個人の方は500万円以上、法人は1,000万円以上のご寄付が申請の対象で、

事前申請による分納も可能です。

詳しくは東京事務局(電話：03-6240-1564 メール：publicity@japanheart.org)まで

お問い合わせください。



毎月の寄付 (マンスリーサポーター)

1日100円から、心を救う医療を届けることができます。

3,000円／月

360名の子どもの抗生物質の
注射を打てます

10,000円／月

小児がんの子どもに約4ヶ月分の
抗がん剤を届けられます

100,000円／月

小児がん患者の子ども7名を
手術できます

※寄付の使途は例です。(1米ドル＝150円で計算)
月額3,000円以上であれば、ご希望に応じて任意の金額を設定し、ご支援いただくことも可能です。

▶ オンライン決済 (クレジットカード)

団体ホームページ「支援・寄付する」ページへ。
「毎月の寄付」を選び決済をお願いします。

▶ 口座からの自動引き落とし

電話、メール、団体ホームページ「お問い合わせフォーム」にて
口座振替用紙をご請求ください。

毎月の寄付に
関するページは
こちらから▶



今回のみの寄付

関心のある課題、支援したい分野を選択してご寄付いただくことができます。

▶ オンライン決済 (クレジットカード)

団体ホームページ「支援・寄付する」ページへ。「今回のみの寄付」を選び決済をお願いします。

▶ 口座への振込み

お申込み方法

〈ゆうちょ銀行からお振込みの場合〉

銀行名 ゆうちょ銀行
口座名義 特定非営利活動法人ジャパンハート
記号番号 00910-3-166806

〈他の金融機関よりお振込みの場合〉

銀行名 ゆうちょ銀行
口座名義 トクヒ ジャパンハート
預金種目 当座
店名 ○九九店 (ゼロキューキュー店)
店番 099
口座番号 0166806

遺贈での寄付

遺言書にすべて、または一部の財産の受取人としてジャパンハートをご指定いただく
ことで、大切な資産を未来のために役立ていただけます。

詳細資料をご用意しておりますので、以下までお問い合わせください。

※必要な手続きを取ることで、税法上の特例措置が受けられます。

※実際の手続きを行う際は、司法書士等の専門家・銀行の信託部門など、専門機関へのご相談を
お勧めいたします。お心当たりがない場合は、当団体よりご案内いたしますのでお気軽にお問合せください。

※遺言によるご寄付(遺贈)につきましても「遺族追賞」として、紺綬褒章のご推薦が可能です。

<お問い合わせ先>

東京事務局 遺贈担当 03-6240-1564 メール：izou@japanheart.org



ふるさと納税で寄付

ジャパンハートが事務所を構える佐賀県では、NPO団体を支援
する制度を実施しています。

ジャパンハートを指定して佐賀県にふるさと納税(寄付)をする
ことで、寄付額の85%がジャパンハートの活動に活用されます
(15%は県の事務費や県民協働の地域づくりに活用)。

ふるさと納税を利用した寄付金のうち、2,000円を超える部分
については、所得税の還付や住民税の控除が受けられます。

(一定の上限があります)

ふるさと納税でのご寄付方法

- ① QRコードを読み込む
- ② 返礼品を選ぶ(返礼品なしのプランも有)
- ③ お名前・お支払い方法等を入力する

QRコード
または **ジャパンハート ふるさと納税**
で検索!



身近な物で寄付

ご家庭に眠っている物品の査定額がジャパンハートへの寄付になります。

① **古本で寄付する**：読み終えた本、DVD、CDなど。

③ **洋服で寄付する**：使わないブランドものの洋服など。

② **物品で寄付する**：未使用切手や使わなくなったカメラや
携帯など。

※ご寄付いただく物の送付先は各協力事業者になります。
詳細は、団体ホームページ「支援・寄付する」ページからご確認ください。

ジャパンハートアドバイザーボード



本田 圭佑
挑戦者



吉田 正樹
株式会社ワタナベエンターテインメント
代表取締役会長



小松 成美
作家



樹林 伸
作家

アドバイザーの方々には、イベントへの登壇やさま
ざまな場面での広報協力などを通じて、私たちと
活動とをともにし、応援していただいています。



山田 進太郎
株式会社メルカリ
代表執行役CEO



望月 理恵
株式会社セント・フォース 取締役
フリーアナウンサー



松浦 美穂
TWIGGY 主宰
クリエイティブ・ディレクター



岸谷 香
ミュージシャン

メディア実績

これまでの主なTV出演

2009～11年 毎日放送『情熱大陸』計3回出演
2013年 NHK BSプレミアム『輝く女』
2014～19年 テレビ東京『未来世紀ジパング』計4回出演
内閣府テレビCM 出演
2017年 フジテレビ『あいのり Asian Journey』
2018年 テレビ東京系『世界ナゼそこに?日本人
～知られざる波瀾万丈伝～』
2020年 テレビ東京『カンブリア宮殿』
2020年 フジテレビ『石橋、薪を焚べる』
2022年 NHK BS1『最後の講義』
2023年 読売テレビ『グッと!地球便』

2025年度の主な実績

4～5月 ミャンマー大地震 NHKおよび民放各局・各新聞ほか多数
吉岡秀人・ミャンマー事業 河野朋子・iER 高橋茉莉子
4月 『致知』5月号 吉岡秀人
10月 書籍『最期は一日中抱っこさせて』吉岡春菜(取材掲載)
10月 NHK『国際報道』吉岡秀人(スタジオ生出演)
10月 NHK『キャッチ!世界のトップニュース』
カンボジア(旧)ジャパンハートこども医療センター
11月 文藝春秋『2026年の論点100』RIKAjob丸山由紀
12月 毎日放送『情熱大陸』アジア小児医療センター
2月 NHK world『Direct Talk』
3月 日本経済新聞『人間発見』吉岡秀人(全4回連載)

ジャパンハートは、企業・団体の皆さまとお互いの特長を活かした協働によって、ともに「医療の届かないところに医療を届ける」活動に取り組んでいます。ご興味のある方はぜひお問い合わせください。

▶2025年度のご支援事例



ダイワボウ情報システム株式会社

ダイワボウ情報システム株式会社

6年にわたり継続的なご支援を賜り、国内外の医療活動を支えていただいています。命をつなぐ取り組みへの力強い後押しと、長年にわたる温かなご支援は、新病院開設や活動全般を発展させる大きな力となっています。



中外製薬

中外製薬

2019年より継続的なご支援を賜り、カンボジアにおける医療活動の推進に加え、チーム医療の質向上を目指したワークショップの実施や新病院開設にも多大なご協力をいただき、現地医療の発展に大きく貢献いただいています。

**日本産業パートナーズ
こども基金**

日本産業パートナーズ株式会社

2025年10月に開院したジャパンハートアジア小児医療センターにおいて、CTスキャン設備導入のためのご寄付を賜りました。検査精度の向上と医療提供体制の強化に大きく寄与いただいています。



Daiichi Life Group

株式会社第一ライフグループ

ミャンマー・カンボジアでの医療活動にご賛同いただき、継続的にご支援くださっています。ミャンマー地震の際も、被災地での緊急支援活動の確かな支えとなってくださいました。



小野薬品

小野薬品工業株式会社

医療アクセス改善プログラムの一環として、人材育成・巡回診療・医療機器導入を支援いただき、新病院開院とあわせて現地の医療体制強化に重要な役割を果たしてくださっています。

finess inc.

株式会社フィネス

未来を担う子どもたちへの支援に積極的に取り組まれるなか、団体理念にご共感いただき、多額のご寄付と物資提供を通じて国内外の医療活動推進を、大きく後押しいただきました。

木と生きる幸福



住友林業

住友林業株式会社

被災地での救援活動に対しご寄付を賜り、ミャンマー地震で被災した地域において止めることのできない医療体制の復旧と生活物資支援を通じ、復興にご貢献いただきました。

大和証券グループ本社

株式会社大和証券グループ本社

ミャンマー地震へのご支援により、現地で必要とされる医療と生活支援の迅速な展開を支えていただくとともに、復旧へ向けた継続的な活動の推進にご貢献いただいています。



三菱地所

三菱地所株式会社

ミャンマー地震の被災地における医療支援活動に対しご支援を賜り、現地での継続的な救援と復興支援に於いて大きな力となりました。



公益財団法人 全日本仏教会

公益財団法人全日本仏教会

被災地支援にあたり、会員の皆さまへのお呼びかけによるご寄付を賜り、ミャンマー地震の被災者に寄り添いながら現地での継続的な支援活動を力強く支えていただきました。

Spark Your Journey



KDDI株式会社

多岐にわたる活動にご共感賜り、長年ご支援いただいています。2024年からは「こころの花束」を導入し、新たな寄付文化の醸成を後押しくださっています。



大塚インベストメント株式会社

「スマイルスマイルプロジェクト」を中心に、ご支援とご共感をいただいています。協賛イベントには社員の皆さまも参加し、ともに子どもたちへ笑顔を届けてくださっています。

ALBION

株式会社アルビオン

社員の歩数が寄付につながるチャリティウォークを通じたご支援に加え、本社移転や周年の節目に「こころの花束」をご活用いただき、継続的に活動を応援いただいています。



B BRAUN

ビー・ブラウンエスクラップ株式会社

ジャパンハートアジア小児医療センターに対し、医療機器のご提供を賜り、手術の質や安全性の向上、診療領域の拡大など現地医療体制の強化に大きく貢献いただいています。

お祝いの気持ちを、いのちを支える力へ——こころの花束

企業の移転や周年、人事異動などの節目に贈られる祝花や祝電の代わりに、寄付を通じて医療支援へとつなげる仕組みです。お祝いの想いが、医療を必要とする子どもたちや人々への支援へつながり、国内外の現場で役立てられます。ジャパンハートが贈り主とのやり取りを代行することで企業の負担が軽減されるほか、花の輸送・管理・廃棄に伴うCO2排出や資源消費などの地球への負担も軽減されるため、環境にも優しい取り組みです。ご関心をお寄せいただける方は、右記QRコードより詳細をご確認いただき、お気軽にお問い合わせください。



会計報告

▶2025年度 活動計算書

2025年4月1日～2026年3月31日			(単位:円)
科目	決算額	前年度決算額	
I 経常収益			
1 受取会費	16,583,378	15,545,000	
2 受取寄附金・資産受贈益・受取役務寄附金	1,180,813,179	1,832,719,026	
3 受取助成金等	110,734,512	6,490,000	
4 受取参加費	23,378,887	20,530,721	
5 事業収益	1,286,712	3,542,430	
6 その他収益	42,109,919	126,330,345	
経常収益計	1,374,906,587	2,005,157,522	
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費	387,819,173	357,173,994	
(2)その他経費	835,692,088	416,771,714	
旅費交通費	50,379,042	52,012,044	
学業・子ども支援費	18,060,794	23,310,545	
減価償却費	355,287,612	81,923,298	
消耗品費	58,177,835	16,983,596	
医療支援(医薬品、医療資材、検査、患者物品購入)・医療器具備品費	151,169,629	74,080,668	
地代・家賃	15,448,142	13,885,252	
広告宣伝費	40,358,508	36,908,168	
その他活動に係る経費	146,810,526	117,668,143	
事業費計	1,223,511,261	773,945,708	
2 管理費			
(1)人件費	12,262,392	9,282,364	
(2)その他経費	33,784,742	31,082,746	
管理費計	46,047,134	40,365,110	
経常費用計	1,269,558,395	814,310,818	
当期経常増減額	105,348,192	1,190,846,704	
III 経常外収益			
固定資産売却益	-	-	
前期損益修正益(過年度コロナ対応派遣業務に係る入金)	-	-	
経常外収益計	-	-	
IV 経常外費用			
固定資産売却損	-	-	
前期損益修正損(過年度コロナ対応派遣業務に係る原価)	-	-	
過年度受取参加費返金等	-	150,000	
控除対象外消費税等	-	-	
経常外費用計	-	150,000	
税引前当期正味財産増減額	105,348,192	1,190,696,704	
法人税、住民税及び事業税	246,023	2,353,015	
当期正味財産増減額	105,102,169	1,188,343,689	
前期繰越正味財産額	3,352,647,436	-	
次期繰越正味財産額	3,457,749,605	1,188,343,689	

▶経常収益内訳

項目	割合
受取寄附金	85.8%
その他収益	3.1%
受取会費	1.2%
事業収益	0.1%
受取参加費	1.7%
受取助成金等	8.1%

▶2025年度 貸借対照表

2026年3月31日現在		(単位:円)
科目	決算額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	531,583,584	
棚卸資産	642,412	
前払費用	2,809,495	
未収金	452,530	
その他	636,951,729	
流動資産合計	1,172,439,750	
2 固定資産		
土地	406,029	
建物	1,218,806,407	
建物付属設備	426,088,454	
工具器具備品	565,042,658	
ミャンマー土地賃借権	15,708,758	
敷金	3,162,294	
建設仮勘定	35,592,458	
投資有価証券	30,000,000	
その他	30,531,535	
固定資産合計	2,325,338,593	
資産合計	3,497,778,343	
II 負債の部		
1 流動負債		
前受金	-	
未払金	39,087,630	
預り金	790,108	
その他	151,000	
流動負債合計	40,028,738	
負債合計	40,028,738	
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	3,352,647,436	
当期正味財産増減額	105,102,169	
正味財産合計	3,457,749,605	
負債及び正味財産合計	3,497,778,343	

▶経常費用内訳(国別、事業別)

事業別	割合
カンボジア事業	43.4%
ミャンマー事業	18.7%
災害支援・対策事業	10.8%
事業推進/広報事業	10.4%
ラオス事業	6.6%
医療チーム(MHR)事業・地域医療支援事業	2.2%
スマイルスマイルプロジェクト事業	2.6%
HR	1.4%
管理費等	3.9%

24 Japan Heart 2025 annual report

2025 annual report Japan Heart 25

カンボジア

ミャンマー

ラオス

メディカルチーム

災害支援・対策

地域医療支援

スマイルスマイルプロジェクト

活動への支援/広報

支援企業団体

会計

From Japan Heart Staff



理事長
吉岡 春菜

皆さまのお気持ちが遠く離れた子どもたちを苦痛から解放し、笑顔につなげています。皆さまと一緒にこの活動を続けられることが、私たちの何よりの力の根源です。改めて感謝申し上げます。



事務局長・海外事業責任者
佐藤 抄

支援とは、誰かを「助ける」ことではなく、ともに生きることだと思っています。支えてくださる皆さまの存在は、苦しい時に何度も私たちを前へ進ませてくれました。これからも、子どもたちや家族、皆さまの未来と幸せに向き合い続けます。



副理事長・ジャパンハート医療センター院長
神白 麻衣子

カンボジアに新しい小児病院を開設できたのは、ひとえに皆さまのご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。皆さまの温かい想いを乗せた治療を、患者さんとご家族に最大限に届けられるよう、これからも全力で取り組みでまいります。



人事・採用責任者
杉山 智哉

私たちも、皆さまと同じ「何かしたい」という想いを持つ一人であり、ご縁があつてその役割を担っているに過ぎません。この活動は、私たちだけではなく、皆さまとともにつくるもの。これからも一緒に歩んでいければ嬉しく思います。



スマイルスマイルプロジェクト責任者
伊藤 和子

ひとりでは難しくても、理解し応援し、ともに泣き笑う人がいれば大きな力になり、子どもの笑顔と希望に繋がります。私達を動かす大きな力である皆さまと一緒に、子どもたちの笑顔の時間をつくることに心から感謝いたします。



ミャンマー医療事業責任者
河野 朋子

一人ひとりの生命に寄り添い続けられるのは、皆さまからの温かなご支援があるからこそです。困難な状況にあるなかでも希望を届けられるよう、現地スタッフとともに歩み続けてまいります。心からの感謝を込めて、ありがとうございます。

Thank you for your support!

あなたの支援が、私たちの力になっています!

2025年度も、たくさんの温かい
皆さまから託された想いは、国内
ジャパンハートの国内
感謝の気持ちとこれから

ご支援をありがとうございました。
外の現場に確かに届いています。
外スタッフ15名から、
への決意をお届けします。



災害支援事業責任者
高橋 茉莉子

行政にも企業にも手の届かないところへの支援を目指す私たちにとって、支援者の皆さまの共感とご支援は、「これは社会にとって必要な活動なんだ」という大きな励ましとなっています。これからも皆さまと共に、「社会を今より少しだけよくする」活動ができれば幸いです。



カンボジア事業副代表/
ACMC運営責任者
松原 遼子

いつも温かいご支援をありがとうございます。私たちの活動は、皆さまの想いに支えられていることを日々実感しています。東南アジアの人々に、医療とともに皆さまのお気持ちが届くよう、これからも邁進してまいります。



個人/法人支援部門責任者
皆川 夏子

皆さまの支えがあり、私たちは一つ一つの命に向き合うことができています。心から、感謝いたします。皆さまの想いを胸に、これからも歩んでまいります。引き続きの応援、よろしく願い申し上げます。



カスタマーリレーション担当
原 梨桜

いつも温かいご支援、ご関心をお寄せくださりありがとうございます。志をともにする人の存在はこんなにも心強いのかと、活動を通して日々実感しております。皆さまの想いを形にできるよう励んで参りますので、引き続きよろしくお願いいたします。



個人/法人支援担当
真鍋 優花

いつも温かいご支援をいただき、誠にありがとうございます。ジャパンハートの活動は、本当に多くの皆さまのご賛同と応援のお気持ちに支えられているのだと、深く実感しております。これからも皆さまの温かい想いをしっかりと活動へつなげてまいります。



Dream Train運営責任者
那須田 玲菜

いつも見守っていてくださり、ありがとうございます。勇気のいる新たな決断や挑戦も、子どもたちが木陰で過ごす穏やかな時間も、みんながまっすぐ見据える未来も、そのすべてが皆さまの存在に支えられています。



医療人材採用・サポート担当
武内 三恵

17年間ジャパンハートで働くなかで、本当にたくさんの方と出会いました。支援者の方々、最前線で活動する医療者の皆さま、活動の輪を広げてくださいる皆さま。一人ひとりのご縁が今日のジャパンハートにつながっています。これからも一期一会を大切に歩んでまいります。



カンボジア事業/
JHMCアドミニストレーションマネージャー
木下 渉

皆が笑い合える世の中であってほしい、きっと誰もが持っているその想いを形にしてご支援して下さっている皆さまに私も含めた多くの人が支えられています。これからも皆さまとともに一歩ずつ、より良い世界へ向かって歩んでいければと思っています。



ラオス事業 マネージャー
里見 春佳

多くの方と活動をともにすることで、東南アジアでたくさんの人の心を救うことができております。これからも活動に賛同して下さる一人ひとりとの出会いを大切に、一歩一歩活動に精進してまいります。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。





特定非営利活動法人 ジャパンハート

お問い合わせ

特定非営利活動法人ジャパンハート 東京事務局 〒111-0042 東京都台東区寿 1-5-10 1510ビル3階
TEL. 03-6240-1564 (平日10~17時) FAX. 03-3845-6530 E-mail : publicity@japanheart.org URL : <https://www.japanheart.org>

※本書の一部またはすべてを無断で複写、転載引用することを固く禁じます。



Facebook



Instagram



X (旧Twitter)



LINE



YouTube